

『平成24年度 街なか再生助成金』

助成事業の報告

本助成金の募集につきましては、今年の2月1日から3月31日までの2ヶ月間行ったところ、全国より26件の応募をいただきました。

応募頂いた全ての事業を確認し、選考委員会による厳正なる審査を行った結果、以下の5事業に対して助成を行うことに決定致しました。

■ 平成24年度助成事業一覧

事業名	団体名	実施場所
芹橋地区歴史的まちなみの 保存・再生に係る事業	彦根景観フォーラム	滋賀県 彦根市
修善寺駅周辺地域まちづくり活動	修善寺総合研究所	静岡県 伊豆市
Action for Public Spaces Ochanomizu -公開空地の文化的利活用による 地域活性化を推進する活動-	お茶の水オープンスペース 活用推進会議	東京都 千代田区
岩手飯岡駅周辺まちづくり計画策定 プロジェクト	永井地区まちづくりの会	岩手県 盛岡市
鶴岡ランド・バンク事業 (小規模住環境再編事業)	鶴岡ランド・バンク研究会	山形県 鶴岡市

事業名称	芹橋地区歴史的まちなみの保存・再生に係る事業
団体名	彦根景観フォーラム
実施場所	滋賀県 彦根市

事業概要：

江戸期からの歴史的な街並みが残る芹橋地区であるが、空き家・空き地の増加、景観にそぐわない建物の増加、防犯対策、高齢化など様々な課題を抱えている。これらの課題を解決しながら、歴史的な街並みを活かしたまちづくりを進めるべく、以下の活動を実施した。

実施報告：

①空家調査・データベース作り

- ・地域に残る歴史的な建物(昭和戦前以前)の調査、及び消火栓などの防災調査を行い、建物のデータベース化を行い、「まちづくりマップ」としてGISを使った地図情報に集約した。空家については、データベースから検索できるようにした。
- ・調査にあたっては、11月18日と12月16日の2回に分け、地域住民＋専門家＋学生等一般市民の協力により実施した。

②防災広場等研究

- ・上記の防災調査の結果を踏まえ、地域住民との意見交換・ワークショップを行った。
- ・現状の課題、調査によって明らかになった問題点を整理し、防災機能・歴史拠点機能・防災福祉広場機能を併せ持った「防災コミュニティひろば」を提案。H25年度に向けての提言を含め、報告書にまとめた。

③サロン・研究会

- ・概ね月1回の頻度で合計10回のサロン・研究会を実施した。



定期開催のサロン



建物調査

実施成果：

- ・地域に残る歴史的な建物や空家の実態が把握できた。
- ・地域住民による建物調査や防災調査を行ったことで、地域の意識や絆が深まり、ソフト面での防災力の向上につながっている。また、この調査により課題がより明確になった。
- ・事業目標としてサロン等の参加者増(目標20%増)を掲げ、結果は約10%の増加で目標には到達しなかったが、着実に成果が上がっている。

事業名称	修善寺駅周辺地域まちづくり活動
団体名	修善寺総合研究所
実施場所	静岡県 伊豆市

事業概要:

平成23年度から実施されている伊豆箱根鉄道修善寺駅駅舎改築及び北口新設工事、また平成27年度より実施が予定される修善寺駅周辺地域再開発事業において、地域住民および駅利用者の再開発事業への関心を高め、まちづくりやにぎわいづくりへより多くの地域住民が参画してほしい、という考えに基づき以下の活動を実施。

実施報告:

①自由討論会開催

- ・合計8回開催。のべ参加者数は200名以上。地元住民をはじめ、伊豆市役所など行政機関、東海バスなど交通機関、三島信用金庫など金融機関、伊豆総合高校の生徒、職員など広範囲の方が参加。
- ・修善寺駅周辺地域の課題について話し合い、事業への関心を高めた。

②地域の魅力発見マップ作成

- ・地元の小学生と地域の魅力発見マップ作成。地域の歴史を伝える版と街歩きマップ版の二種類を作成
- ・作成したメンバーだけが満足する内容ではなく、地元住民や観光等の訪問者にも手にとってもらえるような内容とするため、地元出身のデザイナーの協力を得て作成した。

③街歩きツアー実施

- ・(2)で作成したマップの内容に基づき3月に街歩きツアーを開催。
- ・駅周辺地域の魅力と課題について説明を受けるだけでなく、工場での製作体験、清掃ボランティア活動も含めて実施。



自由討論会



地域の魅力発見マップ

実施成果:

- ・本事業の中で、地域の核となるメンバー(地域住民、事業主体である伊豆市役所や伊豆箱根鉄道、交通事業者、学校など)との交流を、地元の小学校の協力を得ながら進めることができた。また、住民だけでなく、通勤通学や観光などで修善寺駅前地域を利用するさまざまな立場からの意見を集めることができた。
- ・本事業の目的である“地域の魅力と課題”の発見につながるパンフレットの作成をすることができた。助成金により、パンフレットの品質向上につながった。

事業名称	Action for Public Spaces Ochanomizu -公開空地の文化的利活用による地域活性化を推進する活動-
団体名	お茶の水オープンスペース活用推進会議
実施場所	東京都 千代田区

事業概要:

公開空地の利活用が非常に限定的な状況にあるなかで、都心の有益なオープンスペースである公開空地の活性化を図ることは地域住民にとって生活環境が高まる便益があり、街の新たな魅力・可能性の発掘にもつながる。地区における公開空地を有効に活用することで、多様な市民が集まり、交流しやすい場の創出を図り、まちの魅力を高めていく工夫を探るべく、以下の事業を実施した。

実施報告:

- ①アートイベント開催時に公開空地等の活用実験及びアンケート調査の実施
 - ・公開空地アートプロジェクトの実施と公開空地の文化的利活用に関するアンケート調査を実施。
- ②公開空地の地権者・管理者へのヒアリング調査の実施
 - ・市民による文化活動を促しやすい公開空地はどういった場であるか等について、ヒアリング調査を実施。
- ③公共空間まち歩き調査の実施
 - ・調査票の地図をもとに印象に残った公共空間の良し・悪しを設定した指標に従い評価
- ④東京都「しゃれた街並みづくり推進条例」についての調査
 - ・28団体を調査し、そのうちの23団体と東京都に対して直接ヒアリング調査を実施。
- ⑤勉強会の開催(テーマ「公共空間を楽しむ方法とは?」)
 - ・第1回講師: 山下裕子 (NPO 法人 GP ネットワーク理事 / (株) まちづくりとやま グランドプラザ担当)
 - ・第2回講師: 太田浩史 (東京大学生産技術研究所講師 / 東京ピクニッククラブ共同主宰)
- ⑥WEBサイト作成及び段階的情報更新
 - ・本活動の成果をもとに活動名を『お茶の水スキマ大学』としてWEBサイトを構築。



公開空地アート・プロジェクトイベントの実施



山下裕子氏の講演会

実施成果:

本事業は、事業プロセスのPDCAサイクル(Plan→DO→Check→Action)を始める、まさに最初の「Action」であり、お茶の水の公共空間をテーマとしたまちづくり事業の戦略や計画(Plan以降)を検討する素材になるような、現状分析やニーズの把握、プロトタイピングのような社会実験による公共空間活用の試行とアンケート調査によるフィードバック、勉強会による新しい公共空間に関する知見とアイデアが、本事業の成果と言える。

特に、まちの現状や課題を把握する上で、公開空地の地権者・管理者へのヒアリングにより、公共空間活用の意向や活用したい目的などを確認できたことは、今後の公共空間活用をテーマとしたまちづくり事業に大いに参考になる。また、公共空間活用の社会実験と、利用者へのアンケート調査では、一般者が公共空間の利用の仕方として、あるべき活動の傾向がデータ化されたことは、今後の公共空間活用において参考になった。

事業名称	岩手飯岡駅周辺まちづくり計画策定プロジェクト
団体名	永井地区まちづくりの会
実施場所	岩手県 盛岡市

事業概要:

岩手飯岡駅周辺で区画整理が進捗し、道路環境が改善しつつある。一方で、道路環境の改善に比例して交通量が増加した結果、「整備されていないことによる危険性」から「交通量が増加したことによる危険性」という、従来とは異なる意味で、安心安全な街づくりの必要性が出てきた。

また、岩手飯岡駅は東口の整備を終え、盛岡南公園から岩手飯岡駅の西口に向かい道路整備が進んでいる状況であるが、西口の整備は地域住民の10年以上にわたる課題であり、街づくりの会としても、主体的に課題を抽出し、自ら出来る中での対策を実施してきた部分である。

本事業では、地域の総意としての岩手飯岡駅周辺の街づくり計画の提案を目的に以下の事業を実施した。

実施報告:

- ①現状把握のための勉強会と意見交換会の実施
- ②地域としての課題意識を探るためのアンケート調査(2回実施)
- ③岩手飯岡駅の周辺の点検と結果共有のためのワークショップの開催
- ④他地域の事例を参考に、自分たちの地域を考える勉強会を実施
- ⑤活動状況報告および周知のための情報誌「ながい」発行(2回発行)
- ⑥駅の付加価値機能や設備を参考にするため、改修済み近隣駅視察と共有のワークショップ開催
- ⑦小学生参画による街づくりイメージパネル作成



ワークショップ



駅周辺現地調査

実施成果:

本助成により地域住民としての駅周辺の街づくり計画をまとめることができた。毎回の検討に際しては盛岡市にも参加していただいているが、地域主体の街づくり活動として高い評価を得ている。

また、今回の活動の中で小学校との協働という新しい展開を得ることができ、今後の継続した街づくり活動にあたり大きな成果となった。

事業名称	鶴岡ランド・バンク事業(小規模住環境再編事業)
団体名	鶴岡ランド・バンク研究会
実施場所	山形県 鶴岡市

事業概要:

密集住宅地の空き家・空き地・狭あい道路の問題を一体的に解消するべく、市内でも特に空き家の多い市街地の住宅地の町内会(神明町)をモデルに、まちあるき・模型を使ったワークショップ等を開催し、住民の手によるまちの将来像を「まちづくり計画」として策定する。同時に町内で空き家の集中している箇所をモデルに、小規模開発手法の実験を行い、連鎖型の小規模区画再編事業として確立するべく、空き家等の所有者へ交渉を行うと共に、開発基準・道路認定基準等の制度上の課題解決に向けた検討を行う。

実施報告:

- ①住民参加の現地ワークショップ(3回)に加え、インターネット上に「バーチャル神明町」を開設し、多くの方から空き家活用のアイデアを集め、住民の手による「神明町10年まちづくり計画」を策定した。
- ②小規模開発事業の実験の対象となる土地・建物の所有者へ、事業への協力交渉及び調整を行い、老朽危険空き家の解体・整地を3箇所を実施。
- ③鶴岡市の関係部署と連携し、建築基準及び道路認定基準との調整を行い、小規模開発事業の検証に向けた協議を実施。
- ④社会的企業として「特定非営利活動法人つるおかランド・バンク」を設立(H25.1.22)。空き家所有者と希望者とのマッチングや空き家コンバージョンのコーディネート等、空き家の有効活用や良好な住環境の整備を図っていく。
- ⑤鶴岡市主催 フォーラム「空き家の適正管理と有効活用～鶴岡の挑戦～」共催(H25.2.17)



ワークショップ



老朽危険空き家解体準備



老朽危険空き家解体後

実施成果:

神明町10年まちづくり計画の策定を通じて、空き家への取組みを周知し住民や所有者等の意識啓発が図られ、また、市内の密集住宅地のまちづくりを考えるための指標となるべく、取組みの方向性や具体的な取組みを示すことができた。

「2012年やまがた公益大賞」を受賞。中心居住地の空洞化地域におけるまちあるきワークショップや、住環境整備の研究検討、危険家屋の状況調査・解体整地など、空き家・空き地問題の解決に向けての活動が、公益活動の活性化として評価された。